

アニメ聖地巡礼をめぐる地域側と聖地巡礼者の 関係構築に関する研究

崔 瑛¹

¹非会員 神奈川大学准教授 国際日本学部国際文化交流学科

(〒221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋 3-27-1)

E-mail: ft102056aw@jindai.jp

本研究は、アニメの聖地として話題を呼んでいる地域である静岡県沼津市（作品名：ラブライブ！サンシャイン!!）、岐阜県飛騨市（作品名：君の名は。）、埼玉県秩父市（作品名：あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。/心が叫びたがってるんだ。）の3カ所の住民を対象としたアニメ聖地に対する意識調査を行い、当該地域の住民が考える聖地巡礼者に対する意識や受け入れの姿勢を把握することを目的とした。限られたサンプルではあるが、本調査の実施により、地域住民のアニメファンに対する考え方を把握することができた。

Key Words: pilgrimage, local residents, Anime Tourism

1. はじめに

コンテンツツーリズムとは、地域にコンテンツを通して醸成された地域固有の雰囲気やイメージとしての物語性やテーマ性を付加し、その物語性を観光資源として活用することである¹⁾。小説やドラマ等を含め、多種のコンテンツの活用が可能だが、欧米では、映画等の舞台となったロケ地におけるツーリズムが発達したのに対し、日本ではアニメのブームが特徴的である。近年、話題作の舞台となった地域にアニメの聖地を巡礼するファンが集まる現象が起り、全国各地でアニメツーリズム関連取り組みが増えている。

このような状況で、アニメの聖地となった地域側とアニメファンの関係構築をどのようにするかが重要な課題となっている。聖地巡礼を行うアニメファンは、現地での交流や地域側の受け入れ姿勢を重視しており、リピートする大きな理由としてあげている。つまり、好きなアニメ作品の舞台となったことで、その作品のゆかりのある場所に訪れることがきっかけではあるが、その後繰り返し地域に来てもらうためには、アニメファンを歓迎する地域側のおもてなしが大事だという。一方で、地域側では、アニメの活用による地域経済の活性化に期待を示しながらも、観光客の急増による負の影響に対する懸念の声があがることもあり、アニメ聖地巡礼をめぐる地域住民とアニメファンの関係設定は、これからのアニメ聖地巡礼のあり方や持続性を考えるうえで、大事なポイントになっている。

本研究は、アニメの聖地として話題を呼んでいる

地域である静岡県沼津市（作品名：ラブライブ！サンシャイン!!）、岐阜県飛騨市（作品名：君の名は。）、埼玉県秩父市（作品名：あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。/心が叫びたがってるんだ。）の3カ所の住民を対象としたアニメ聖地に対する意識調査を行い、当該地域の住民が考える聖地巡礼者に対する意識や受け入れの姿勢を把握することを目的とした。

2. 対象地概要

(1) アニメの放映時期

表1に示すように、秩父市は、アニメがはじめて放映してから9年以上が経過しているが、近年もアニメ聖地巡礼が続いている。

表1 対象地の概要

地域	秩父市	沼津市	飛騨市
概要			
県	埼玉県	静岡県	岐阜県
人口	61380人	193,756人	23,503人
面積	577.69 km ²	187.1 km ²	792.53 km ²
年間観光客	約500万人	約400万人	約100万人
放映開始	2011年	2016年	2016年

秩父市は、岡田麿里の脚本による2つの作品の舞台となった。それぞれ「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」は、2011年テレビアニメとして放映され、その後、劇場版やテレビの実写ドラマとしても放映された。「心が叫びたがってるんだ。」は2015年アニメーション映画として公開された。

沼津市は、ラブライブ！サンシャイン!!のテレビアニメが 2016 年～2017 年に放送終了した後、アニメ映画の劇場版が 2019 年に公開され、アニメファンの聖地巡礼が続いている地域である。

飛騨市の場合は、大きな反響を呼んだアニメーション映画「君の名は。」の影響で多くの聖地巡礼客が訪れたことでも話題となった。いずれも聖地巡礼に訪れるアニメファンの多い地域である。

(2) 対象地の取り組みの状況

(a) 秩父市

地域内の聖地巡礼スポットを訪れるスタンプラリー等の無料イベントが行われている。

(b) 沼津市

沼津商工会議所が中心として、各団体のアニメ関連取り組みをまとめている。

(c) 飛騨市

「君の名は。」の聖地巡礼をする人が急増したことで、映画公開直後から、自治体を中心に聖地巡礼ファンへの対応をしてきている。

3. 調査概要

調査は、インターネットを通じて、2019年3月27日から29日にかけ、楽天インサイトアンケートモニターを対象に行った。調査対象者は、秩父市、沼津市、飛騨市に居住している人に限定しており、表2の調査項目を用いて実施した。沼津市住民200人（男性100人、女性100人）、秩父市50人（男性25人、女性25人）、飛騨市50人（男性34人、女性16人）である。全対象地で300人から回答を得た。

表2 調査項目

個人属性	性別、年齢、地域
	仕事の就労形態、仕事の内容（業種）
	現在の生活パターン
	秩父市/沼津市/飛騨市内の居住地区
	秩父市/沼津市/飛騨市内の居住期間
アニメと地域関連	アニメ作品を観た経験
	アニメの物語の舞台に対する認知
	居住地域に対する考え方
アニメファン関連	アニメファンの訪問に対する考え方
	アニメによる経済効果への実感
	アニメの舞台になったことによる変化
	アニメファンとの関係

4. 調査結果の一例

限られたサンプルではあるが、本調査の実施により、地域住民のアニメファンに対する考え方を把握することができた。例えば、表3に示すように、3つの地域の住民意見を合計すると、全体66.3%の住民が「アニメファンが地域を活気づけてくれる」と

考えていることが分かる。また、地域のアニメ聖地化に対して賛成する住民の場合は、「地域の活性化につながる」と考える人や「マナーのいい観光客が多い気がする」等ポジティブな意見を述べていた。一方で、「メリットデメリットを考慮する必要がある」「迷惑がなければ問題なし」等の慎重な意見もあった。

表3 「アニメファンは地域を活気づけてくれると考えるか？」への住民の回答結果

	n	非常に思う	まあ思う	どちらでもない	あまり思う	全然思わない
全体	300	43	156	65	17	19
	100.0	14.3	52.0	21.7	5.7	6.3
沼津市	100	14	49	22	5	10
(男)	100.0	14.0	49.0	22.0	5.0	10.0
沼津市	100	20	51	18	7	4
(女)	100.0	20.0	51.0	18.0	7.0	4.0
秩父市	25	2	13	8	1	1
(男)	100.0	8.0	52.0	32.0	4.0	4.0
秩父市	25	2	15	7	0	1
(女)	100.0	8.0	60.0	28.0	0.0	4.0
飛騨市	34	4	19	6	3	2
(男)	100.0	11.8	55.9	17.6	8.8	5.9
飛騨市	16	1	9	4	1	1
(女)	100.0	6.3	56.3	25.0	6.3	6.3

5. おわりに

4章で示したように、アニメ聖地巡礼に対する地域住民側の考え方は様々ある。このような状況を把握し、住民側の声を明らかにすることは、アニメ聖地を抱える地域側の持続的な取り組みを考えるうえで、貴重な手がかりになりうる。しかしながら、アニメ聖地となる地域住民側の観点に着目し、意見や現状を明らかにした研究は多くない。今後、さらに詳細なデータ分析を行い、各地域の現状について明らかにしていきたい。

(2020.10.2 受付)

参考文献

- 1) 国土交通省総合政策局観光地域振興課、経済産業省商務情報政策局文化情報関連産業課、文化庁文化芸術文化課：平成16年度国土施策創発調査「映像等コンテンツの制作・活用による地域振興のあり方に関する調査報告書」、pp.48-59、国土交通省、文部科学省、経済産業省、2005。
- 2) 畠山仁友：アニメの舞台化が地域に及ぼすプロモーションとしての効果—P.A.WORKS『花咲くいろは』と湯涌温泉「ぼんぼり祭り」を事例として—、広告科学No.57、pp.17-32、2012。
- 3) 石田もとな：コンテンツツーリズムの概念についての研究ノート、コンテンツツーリズム学会論文集No.3、pp.34-40、2016。